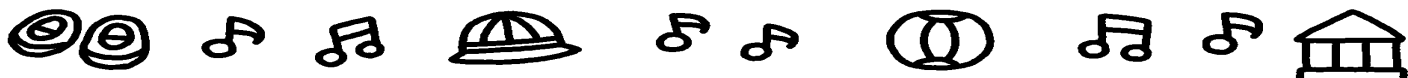


3月の園だより

令和6年2月22日

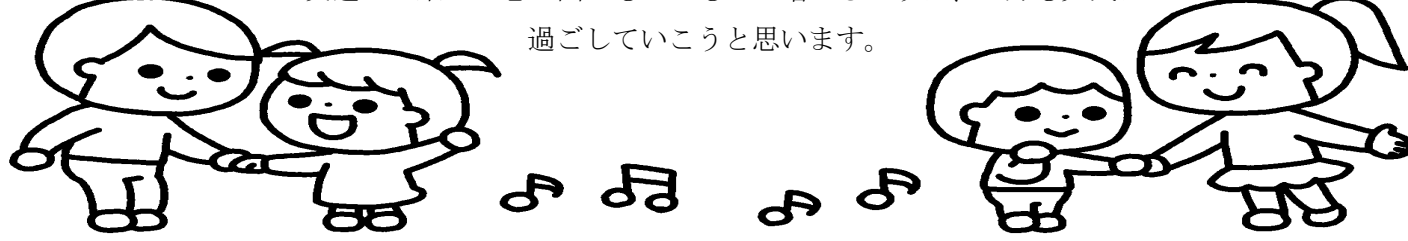
第一早蕨幼稚園

園長 生田 増美



園庭の木々や植物たちのつぼみが膨らみ始め、明るい日差しは春の訪れを告げています。子どもたちも、春の陽気に誘われて園庭に出て一段と元気に遊んでいます。

2月もあっという間に過ぎてしまいましたが、音楽会やお茶会など、年度を締めくくる行事で、一段と張り切る子どもたちの様子は、それぞれの子の意欲や成長を感じさせてくれました。すくすくと育っていく姿に、保護者の皆様と同様に、私たち職員にとっても大きな喜びの日でした。一方、年長児の自信に溢れた誇らしげな姿は、喜びとともに、別れの日が近づいていることも思い起こさずにはいられません。子どもたちも保護者の皆さまも、進学への溢れる期待と、別れの寂しさを感じながらの日々ではないでしょうか。1年間共に過ごした友達との楽しい思い出がもっともっと増えるように、3月も元気に



「園長先生、ちょっと来て！」

「〇〇君を叱って！」3人の年長児が職員室に駆け込んできました。何がおきたのかと少しドキドキしますがわざと落ち着いた声で「どうしたの？」と声をかけます。興奮真っ只中で話してくれたことは、H君が先生(担任)のほっぺをたたいたこと、先生がとても痛そうにほっぺを押さえていること。つまり、H君を叱って、先生を助けてほしいということです。3人は、わかりやすく伝えようと言葉を駆使し、懸命に言葉をつなぎながら訴えています。その表情は真剣そのもの。頬を押さえ(多分、少し大げさに)痛がる素振りの先生の様子や、しょんぼりしているH君の表情、取り囲むクラスの子どもの大騒ぎが目浮かび、なるほどとともに、少し可笑しくなりました。大好きな先生の一大事に「大変だ!叱ってほしい!」と訴えにきたのです。一方、H君がわざと先生の頬をたくさぬないので、こんな大ごとになってびっくりしていることも想像がつかます。さてどうしましょう…「うーん、じゃあ、A先生をお医者さんに連れて行った方がいいかなあ…」「え?いや、血も出ていないし、お医者さんに行かなくても大丈夫だと思う」「先生、かわいそうだなあ、冷えピタ持って行ったら、泣き止んでくれるかなあ」「ううん、違うよ、泣いてないよ、H君と話をしてる」「そうか、H君叱られているんだね、じゃあ園長先生が行けば、H君はきっとすごく泣きながら謝ってくれるだろうね」と、のらりくらりと話をしていると「ねえ。そんなに、叱られなくてもいいんじゃない?」「そうだよ、わざとじゃないかもしれないし」「2人の先生が叱ったら可哀そうじゃない?」「そうだよ、もうやらないって決めたかもしれないし…」自分たちで考えて結論が出たようです。さあ、もう私の出る幕はありません。「じゃあね。園長先生!失礼しました」と3人はさっさと職員室を後にし、「また困ったらきてねー」とにんまりしながら姿を見送りました。大好きな人を心配して助けたいという思い、してはいけないことをした友達への怒り、そして困っているだろう友達の心の痛みを思いやる気持ち。今日も、ひとつ思いやりの心が卒園へのお土産に加わりました。痛い思いをしたA先生には悪いけれど、「いいじゃん!いいじゃん!第一早蕨の子どもたち!」